



進路ニュース

第105号

令和8年
2月27日
発行
寒河江高等学校
進路指導課

諸君、狂いたまえ

教頭 秋葉 正任

「諸君、狂いたまえ」。幕末の志士、吉田松陰が松下村塾の門下生に向けた言葉です。ここでいう「狂う」とは、決して理性を失うことではありません。周囲の評価や損得を捨て、ただ純粹な情熱に従い行動することを指します。現代は、予測が困難で先行きが不透明な「VUCA」という段階を超え、ICTやAIの急速な進化によって、より複雑で混沌とした「BANI時代」と呼ばれる状況です。激動の幕末を生きた松陰の言葉は、変化の激しい現代を生きる私たちに、大切な示唆を与えてくれるのではないかと思います。

皆さんは今、なぜ学んでいるのでしょうか。もし「勉強させられている」と受動的に感じているのなら、そこにはまだ、自分自身の「狂い」、つまり情熱が欠けているのかもしれない。学習における「狂い」とは、「なぜ？」と問い続ける純粹な好奇心や、「こうなりたい」という志のことだと思えます。高校で学ぶ諸学問や探究活動は、単なる知識の蓄積ではなく、自分の情熱を社会と接続するためのものです。自分の興味・関心が学びと重なり、「おもしろい」「やってみよう」と感じたとき、誰に言われるまでもなく、主体的に納得するまで学び続けることができます。これこそが、高校時代に経験したい、最も贅沢な学びの姿だと思えます。

なぜ、今ここで吉田松陰の言葉を用いるのか。それは、本校が立つこの長岡山の地は、吉田松陰の出身地である長州と、深い縁があるからです。皆さんは、長岡山が、かつて戊辰戦争の戦場となったことを知っていますか？ いわゆる幕領（江戸幕府の領地）だった寒河江と、新政府側の長州は言わば政敵でした。しかし、そのルーツを辿れば、寒河江の基礎を築いた大江家と長州藩の毛利氏は、共に鎌倉幕府の重臣「大江広元」を祖とする縁戚関係にあります。寒河江市役所の吹き抜け2階にも刻まれている大江家家紋「一文三ツ星」は、毛利家家紋と共通しています。明治維新を成し遂げた長州藩の革新の気風の源は、この寒河江の土壌にも、脈々と受け継がれているものと思っています。

今年度から10年間の教育目標、及び5年間の教育施策方針として策定された「第7次山形県教育振興計画」においても、一人ひとりが当事者意識を持ち、前向きにチャレンジすることの重要性が説かれています。正解のない問いに溢れる現代だからこそ、「何をしたいか」という強い意志が欠かせません。失

敗を恐れず、まずはやってみる事です。この高校生生活で、自分は何に對して「狂える」のかを探してください。どんなに小さな『好き』や『なぜ?』でも構いません。それを大切に育ててください。「未来開拓 次代のチカラ 寒高」。その情熱こそが、皆さんの未来を切り拓く鍵になるはずです。

『今年度の年内入試および』

共通テストの状況について』

進路指導課長 道上 琢磨

近年募集枠の拡大を続ける総合型および学校推薦型選抜いわゆる年内入試は、国公立大学の後期日程縮小や前期日程の募集人数減員等によって私立大学のみならず募集人員・志願者ともに増加傾向にある。より良い志願者を選抜するため、従来行われてきた面接や小論文等と併用して基礎学力検査などを実施することも今年度より認可された。予想されていた通り年内入試の募集人員拡大に伴って志願者も大きく増加し、年内に進路を早く決定して安心したいという受験生本人や保護者の心理も顕著となり戦いは激化している。学力試験重視の一般選抜で十分に合格できる生徒であっても早く合格を決めたい想いから出願が増えていたため、点数だけで決まるペーパー試験では合格に届かないが面接や小論文ならなんとかなるかもしれないと安易に出願した多くの生徒は失敗している。変わりゆく大学入試に對応して生徒を支援するため、我々教職員も新たな体制を構築し對応してきたが、やはり下積みが欠けている状態で挑戦しても激戦を勝ち抜くことはできない。低年次から確実に積み上げてきた学習習慣と基礎学力が最重要であると確認した1年であった。入試時期が早まってきているため3年次から受験生になるのでは遅く、低年次にいかに積み上げてきたかで年内入試に挑戦できるかが決まるといえる。

一方、共通テストは新課程2年目を迎え各科目ごとにばらつきはあるが、全体的に非常に文章量が多く難しくなっていると感じている。保護者世代のセンター試験時代とは大きく出題形式が異なり、共通テストは確かな読解力とともに知識のみならず応用力がないと對応が難しい。昨年度よりやや難化したことを考慮すると、今年度の3年次生は最善を尽くしたといえるのではないだろうか。共通テストだけでも非常に大変なのに、先述した年内入試に挑戦しつつ並行して共通テストの準備をしていくには更に並々ならぬ努力が必要である。普段の授業だけでは對応できない年内入試の面接や小論文の準備や訓練は、本来なら共通テストの学習に向かえる時間を割いて行わなければならない。無事に合格すれば共通テスト不要で大学進学が決まる場合もあるが、不合格の場合は準備不十分で共通テストに進む可能性も高い。年内入試と共通テストの両立は今後も大きな課題となるであろう。3年次生が残した軌跡を参考にし、1・2年次生は高校生活を有意義に目標をもって過ごしていただいたい。

『数字』から「見える」「考える」「進路』

一 令和七年度学校基本調査結果から

日本の人口は一億二千三百万人と推計されています。昨年度の高校卒業生は、約九十五万五千人で、そのうち五十五万七千人ほどが大学に進学しました。実に五十八%を超える率です（前年度より一%増加）。これに対し山形県の人口は、昨年四月に百万人を下回り、現在は九十九万人ほどになりました。昨年度、山形県の高校卒業生は八千三百九十人でそのうち大学に進学した者は三千八百八十二人と進路別内訳では全国同様最も多く、その割合は四十六%を超えています（前年度とほぼ同じ）。皆さんは普段、このような数字を意識することはないでしょう。しかし、これだけ多くの高校生が大学に進学している状況で、色々な模試の結果や受験に関するデータ、そして大学に関する様々な情報のグローバル化により、進路に関する高校生の動きを全国的に見て考えることは必要なことだと言えるでしょう。実際、模試において考えてきた受験先を、共通テストの結果によつて、さらに幅広く、北は北海道、南は九州・沖縄まで出願できる大学を検討し、受験し、進学する先輩も出ています。逆に大学側から見ると、地元山形大学への昨年度の進学者は、北海道から二十八人、九州から七人、沖縄から六人が入学しています。一地方大学にあつても受験者、入学者の広域化が進んでいるのです。

二 令和八年度大学入学共通テスト志願者数と前年度共通テスト

志願者数から

さて、この一月に実施された令和八年度大学入学共通テストは、独立行政法人大学入試センターの発表で、志願者は四十九万六千二百三十七人（現役約四十二万人、他約七万人）と、昨年度より千六十六人増えました。山形県出身の志願者は三千五百八十六人（現役約三千二百人、他約三百五十人）で昨年度より三十三人増えました。昨年度の現役大学進学者数に対する昨年度の共通テスト現役志願者数の割合は、全国が七十六・五%ですが、山形県は八十三・三%と高くなっています。これは本県受験生の国公立志向の高さの表れだと考えられます。

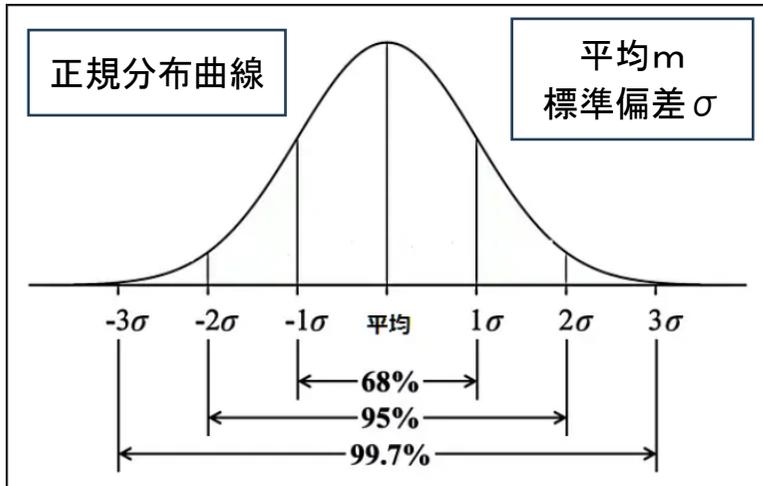
もう一つ興味深い話をしましょう。昨年度（令和七年度）、全国には八百十二の大学がありました。その総募集人員は六十三万五千二百五十人、総入学者は六十四万八千四百三十人でした。ここに示した総入学者は現浪合わせた人数になっています。高校卒業後、大学に進学した人数を「五十五万七千人ほど」と書きましたから九万人ほどは浪人生ということになります。そしてなんと入学者に占める現役進学率は八十五・九%にもなります。次に、多くの受験生が希望する国公立大学、その数と進学に関わる数字を見ていきましょう。ただし以下の人数は現役生浪人生合わせた数になります。国立大学は八十五校、募集人員九万六千四百五十四人で入学者九万九千九百二人、公立大学は百三校、募集人員三万四千二百七十八人で入学者三万六千二百三十六人、私立大学は六百二十四校、募集人員

五十万四千五百十八人で入学者五十一万二千二百三十二人となっています。ざっくりいえば、大学の募集人員六十三万五千人に対し、国公立大学の募集人員は十三万人で全体の五分の一、二十%ほどです。そこに四十九万五千が共通テストの出願をしたわけですから、最終的に国公立大学に出願しなかった受験生がいたにしても、単純に計算すると平均三・八倍の倍率になります。この数字からも国公立大学進学の高難しさが分かります。もちろん人気の私立大学は倍率も高く、志願する受験生のレベルに応じて難易度は上がります。

三 得点と偏差値と順位

模試や受験でよく耳にする偏差値。皆さんはその意味が分かるでしょうか。統計で多くの自然現象や社会現象によくあてはまるとされ、利用される分布として正規分布があります。二、三年次生は数学Bの授業で習った「統計的な推測」の分野に出てきます。ここでは、平均点と散らばり具合（統計では分散や標準偏差の値で示す）の違う試験の得点の成績を比較するのに使われます。どんなテストの結果でも、その得点の平均を五十点、標準偏差を十点にそれぞれ修正（変換）して得られた点数が偏差値です。あくまで得点の分布が正規分布に従っていると考えて統計的処理を施した点数です。そうすると、同じ集団で受験した違う教科の成績を比べることができます。たとえば、寒河江高校二年次生で百六十人が受験した三教科の校内実力テストがあったとします。国語、数学、英語それぞれ百点満点で、平均点が五十四点、五十点、五十八点、標準偏差が十五点、二十五点、二十点だったとします。この時ある生徒が三教科すべて同じ六十五点をとったとしたら、どう評価すればよいか、あるいは、三教科すべてが同じ偏差値六十になるには、それぞれ点数がいくらだとよいかを計算することができます。この計算を二、三年次生は出来ることになっていきますがここでは省略します。左の表を見てください。六十五点の偏差値は、国語五十七・三、数学五十六、英語五十三・五となり、国語が最も良く、次に数学、そして英語となります。逆に同じ偏差値六十になるための得点は、国語六十九点、数学七十五点、英語七十八点です。また、それぞれの得点が零点や満点であっても下の表のように、偏差値が零や百にはなりません。ちなみにその教科の得点幅と偏差値幅は比例します。実際には、得点の標準偏差が偏差値の十に相当しますので、おなじ偏差値一の違いが、ここでは

	国語	数学	英語
平均点m	54	50	58
標準偏差σ	15	25	20
得点が65の偏差値	57.3	56	53.5
偏差値が60になる得点	69	75	78
得点が0点の偏差値	14	30	21
得点が100点の偏差値	80.7	70	71



国語なら一・五点、数学なら二・五点、英語なら二点となるのです。

さて、偏差値の有用性を得点との関係で説明してきましたが、この偏差値、単に違う教科の成績を比較するためだけに役立つものではありません。むしろこれから説明することが模試や受験で利用される一番の理由かもしれません。それは、偏差値が、全体における自分の位置を示す値になるからです。大学を受験して合格するためには、ある基準をクリアしなければなりません。もちろん大学の望む最低限の学力を備え、求める学生像に叶っている必要はあるでしょうが、実際には、募集定員内に入れば合格になります。すなわち受験者全体における自分の位置、上位から数えての順位によるわけです。そこで、本校二年次生のうち実力テストを受験した百六十人に対して、その偏差値と上位から数えて、何%、何位になるのかを左の表にまとめてみました。あくまで得点分布が正規分布に従うと考えての統計的数値です。この表から分かることをいくつか挙げてみます。まず一つ目、実際の得点幅と偏差値幅は比例の関係にあると前述しましたが、偏差値幅と人数や順位との関係はそうならないということです。例えば偏差値五十から五十五までの間に百六十人中三十人が入っています。次に二つ目、偏差値から順位を知ることができません。全体が百六十人である今回のテストでは、偏差値が七十五以上であれば一位、偏差値が六十五であれば十一位、偏差値が五十五であれば五十位ぐらいになります。三つ目、以上のことから大学のレベルを示す偏差値帯によって、合否の分かれ目の様子が違うということです。全国では、入学者六十四万人強と浪人九万人とすれば、受験者はおよそ七十三万人と考えて、地元山形大学など偏差値が五十に近い大学ほど、同じレベルの受験生が多く、少しの点数の違いが合否に大きく関わり、東北大学など偏差値六十に近い大学は、ある程度限られた上位者の戦いとなり、東大や医学部医学科など六十後半から七十に近い大学はまさに少数精鋭で、ちよつとやさつとではチャレンジできないシビアな戦いになるのです。分かりやすくミニモデルである本校二年次生の受験者百六十人で考えると、

偏差値	上位%	160人中	偏差値	人数
75	0.6%	1位	75~	1人
72.5	1.2%	2位	72.5~75	1人
70	2.3%	4位	70~72.5	2人
67.5	4%	7位	67.5~70	3人
65	6.7%	11位	65~67.5	4人
62.5	10.6%	17位	62.5~65	6人
60	15.9%	26位	60~62.5	9人
57.5	22.7%	37位	57.5~60	11人
55	30.9%	50位	55~57.5	13人
52.5	40.1%	65位	52.5~55	15人
50	50%	80位	50~52.5	15人
47.5	59.9%	96位	47.5~50	16人
45	69.1%	111位	45~47.5	15人
42.5	77.3%	124位	42.5~45	13人
40	84.1%	135位	40~42.5	11人
37.5	89.4%	144位	37.5~40	9人
35	93.3%	150位	35~37.5	6人
32.5	96%	154位	32.5~35	4人
30	97.7%	157位	30~32.5	3人
27.5	98.8%	159位	27.5~30	2人
25	99.4%	160位	25~27.5	1人

山形大学レベルは、およそ偏差値四十七・五〜五十二・五の範囲なので三十一人の戦いになります。一方、東北大学などの難関大学は、偏差値六十〜六十五の範囲で十五人の戦

い、東大や医学部医学科になると偏差値六十七・五以上で七人のし烈な戦いになるのです。

以上様々な『数字』から「見える」ことを紹介し、さらに『数字』から『進路（進学・受験）』について「考える」ことをしてみましたが、これを読んだ皆さんには、「自分」の「目」で「見」、「耳」で「聞き」、「手」で「調べ」、「頭」で「考え」、「判断」することを是非お勧めします。

（編集・文責 進路指導課 今野光人）

各年次から

一年次

今年度、三回にわたる学習時間調査や進研模試の結果を分析すると、生徒たちの間に「学習習慣の定着」と「隙間時間の有効活用」が少しずつ浸透してきた様子が伺える。

学習状況において「二極化」という課題は依然として残るものの、少しずつ学習へ意識が向いてきているのではないか。「学びに向かう姿勢」をさらに確固たるものにし、学年一丸となって二年次へと進んでいきたい。

また、一学期より地域に係る分野に分かれて、地域の身近な課題について調査・研究を行い、十一月にMT基礎地域探究発表会を行った。その後、A人文社会・語学・歴史、B国際・経済・地域創生、C教育・スポーツ・芸術、D看護・医療・健康福祉、E自然科学、F科学・数学の六分野に分かれて自分の進路と絡めながら、二年次に向けてグループ編成・テーマ決定、調査・研究を進めている。調べ学習・研究から自分の考え方や視野を広げ、多様な意見に触れる中で自分なりの答え・考えを出せるような主体的な活動に期待したい。

二年次

九月二十四日、「山形のスペシャリストに聞くトップセミナー講演会」と題して、株式会社キタイエの代表取締役の喜多恒介氏や、高校生未来ラボの藤原勝熙氏をお招きして、進路志望の描き方についての講演をして頂いた。エネルギーで希望の持てる講演内容であり、これから志望進路を確定させる最終段階に入る二年次生の心に響くものになった。修学旅行が終わるといよいよ受験に向けて本格的にスタートを切るということで、一年後を想定した受験計画書の作成を行った。これをもとに、二者面談と三者面談を実施し、自分の志望達成に向けての現実的な見通しを検討した。ベネッセの本校担当者を複数回お招きして、模試の判定の見方やこれからの受験計画の立て方等の講演も行って頂いた。三月の高校

入試休み期間には、ベネッセの「キャリアナビ」を使って全員が自らの志望校の志望理由書を書き上げる予定である。「受験にフライングは無い」という考えのもと、志望進路の達成に向けてどんどん先取りをして対策をしてほしい。

三年次

三年次のうちにすべき」とってなんだろう？

三年次は執筆時現在、私立大の一般入試が一段落し、国公立前期試験に向けて最後の追い込みをかけている真ただ中である。夏以降の取り組みを振り返ると、総合型・学校推薦型選抜に向けた個別指導に始まり、各自の課題意識に合わせた課外の活用、そして日々の授業での演習、実践に邁進する日々であった。一つの山場である共通テストに向け、年次全体で高い集中力を保ちながら一丸となって向き合ってくれたのではないだろうか。

今年度は、全員参加の講習を廃止し各自の目的に応じて受講を選択できる課外を導入し、生徒自身の主体性に重きを置いた進路活動を行ったことが特徴としてあげられる。加えて諸先生方との面談をこまめに実施することにより、自らの受験計画や課題意識をより明確にすることができ、進路活動全体を通して三年次生の大きな成長を実感することができた。

「未来開拓 次代のチカラ 寒高」の教育目標が示すように、自ら考え、主体性をもってあらゆる活動に取り組むことが、進路実現の大きなカギである。一、二年次生も学習や部活動、毎日の生活に果敢にチャレンジし、力をつけてほしいと願う。

「三年出陣式」

一月十六日金曜日三校時、本校講堂において恒例の「出陣式」が行われました。校長先生はじめ先生方からの激励、生徒会からの応援、クラス代表者の決意表明、そして有志応援と受験生を奮い立たせる熱い時間と空間を共有しました。その様子をスナップで紹介します。「餅つき」、「理数分野の三角関数ダンス」など盛大にエールを送ったところでした。共通テストは終了しましたが、まだまだ受験は続きます。結果もこれからです。卒業後も最後の最後まで粘り通してください。三年次の皆さんへの春は、これからです。





三次次団の先生方による
 「数学」と「理科」の高得点を祈願して『サインダンス』と『コサインダンス』



「餅つき」：つき上がった餅は『諦めない』と『倍倍ファイト!』

令和7年度 第3回進路志望調査集計結果

1 現在志望している進路

		年次		
		1年	2年	
進 学	4 年 制 大 学	国立大学	109	104
		公立大学	20	28
		国公立大学計	129	132
		私立大学	16	26
		合計	145	158
	準大学	0	0	
	短 期 大 学	国立短期大学	0	0
		公立短期大学	0	2
		私立短期大学	0	1
		合計	0	3
【海外】大学等	1	0		
各種専門・専修学校	2	3		
進学合計		148	164	
就 職	公 務 員	国家公務員	0	0
		地方公務員	0	2
		公務員計	0	2
	民 間	県外	1	0
		県内	1	0
		自営・家業	0	0
		民間計	2	0
就職合計		2	2	

2 進学志望の分野別内訳

		年次	
		1年	2年
①	人文科学	25	28
②	外国語	3	2
③	社会科学	11	25
④	教員養成	20	22
⑤	生活科学	3	2
⑥	芸術	4	7
⑦	理	15	11
⑧	工	22	18
⑨	医(医学部医学科)	3	1
⑩	歯	0	0
⑪	薬	1	4
⑫	保健衛生(医療・看護系)	28	30
⑬	農・水産	5	8
⑭	その他	8	6
	計	148	164



そして『タンジエントダンス』



最後は『勝どき』だ！！